

海の貧栄養化 河口堰が影響

岐阜で生態系巡るシンポ

長良川河口堰（三重県桑名市）による周辺の生態系の変化を考えるシンポジウム



伊勢湾などの「貧栄養化」について説明する鈴木輝明特任教授。岐阜市の長良川国際会議場で。

2026/6/22 中日新聞

門調査を訴える団体「よみがえれ長良川実行委員会」が主催した。名城大の鈴木輝明特任教授は講演で、イカナゴを例に伊勢・三河湾の「貧栄養化」について解説。栄養となるリンや窒素が湾口で減少し、プランクトンを餌に

するイカナゴが十分な蓄えをできずに生存率が下がったと指摘した。鈴木輝明特任教授は「長良川の水は伊勢湾の水を動かす駆動力で、河口堰はその能力を落としている。川から常に水を注ぐことが湾の豊かな漁業生産を維持する根

幹の一つ」と語った。長良川河口堰は、河口から5・4キロ上流にある可動堰。生態系への悪影響があるとして開門を求める声がある一方、管理する水資源機構は塩害防止などの観点から「適切でない」として（瀬里崎蒼馬）

3 県内総合

岐阜市で特任教授らシンポ



シンポジウムで発言する鈴木輝明特任教授（左から2人目）＝岐阜市長良福光、長良川国際会議場

長良川と伊勢湾のつながりを考えるシンポジウム「川と海をつなぐ」が21日、岐阜市長良福光の長良川国際会議場で開かれ、川から注ぐ窒素やリンなどの栄養

塩が漁業に及ぼす影響などについて約80人の参加者が考えた。パネリストの鈴木輝明名城大大学院特任教授は、環境規制で伊勢・三河湾に流

入する栄養塩が減少し、2010年代半ばから漁業生産が顕著に低下したと指摘。「環境基準の達成でアサリが減るといふ皮肉な状況が生まれた」とし、規制が見直される見通しを示した。

長良川河口堰（三重県桑名市）との関係にも触れ、「河口堰から出る長良川の水は、伊勢湾の水を動かす駆動力なので、出ないと栄養塩を含む）水を広げることが落ちる。川から潤沢な水が伊勢湾に常時注ぐことが、豊かな漁業生産の根幹のひとつ」と開門の必要性を訴えた。

漁業のデジタルトランスフォーメーション（DX）化に取り組む企業ウミト・プラス（名古屋）の納谷沙織社長は、川から運ばれる栄養塩がノリを黒くし、

長良川と伊勢湾の関係考察

味もよくなると言及。河口堰の全開操作時に流木や木くずで愛知県常滑市のノリ養殖に被害が出た事例も紹介し、「関係機関と対話と相互理解が必要」と呼びかけた。シンポジウムは環境団体などでつくる「よみがえれ長良川実行委員会」が主催した。（堀尚人）

2026/6/22 岐阜新聞